

健康ってAなあ新聞

責任編集
長谷川勝士
(はせがわ勝士)

1950年生まれ・姫路市出身
駒澤女子大学非常勤講師
(コミュニケーション論)
鍼灸師(全日本鍼灸学会会員)
放送作家(日本放送作家協会会員)
プロデューサー(町おこし・都市開発)



イラスト：
こまいちかこ

美人つて何なのさ？！

美人になりまSHOW!

テレビや雑誌の見出しで「美人〇〇」殺人事件」とあるといついつい見てしまいます。男は美人に胸をときめかせ、女は美人になりたいと切に思う。男女を問わず「美人」という媚薬に引き寄せられています。

しかし、実際のところ、何が「美人」なのか、よくわかりません。江戸時代の浮世絵の「美人画」を見ても美人とは思いませんよね。鎌倉時代には「セブンインフレ」に売っているオニギリのような「まん丸な顔」が美人画として描かれています。また「美人薄命」とも言われ、一体、美人が得なのが損なのか、美人とはどんな人なのかな…。そこで、世界で最も美しいと言われた美女の人生を探つてみましょう。

世界三大美人の美と人生

■絶世の美女「クレオパトラ」

クレオパトラは、エジプトのアトーレマ・イオス朝の王女として生まれ、18歳で女王に即位しました。彼女の人生の大きくな転機は即位した3年後にやってきました。世界最強のローマ帝国の英雄シーザーがエジプトを占領しに攻撃を仕掛けってきたのです。「ローマと戦う」か「降伏するか」、彼女は重大な選択を迫られました。

絶体絶命の状況でクレオパトラが下した決断は驚くべきものでした。同盟關係を結ぶため自らの身を縄の布でくるみ、贈り物としてシーザーに捧げたのです。シーザーはこれを受け入れ、エジプトはローマ帝国と同盟關係を築くことができました。美入つて得ですね。のちに、18世紀の哲学者バスカルが言っています。「クレオパトラの鼻がもう少し低かつたら、世界の歴史は変わっていた

■ 傾國の
美人に写る撮られ方
ともさかりえサンと私

ともさかサンはもちろん
美人だがそのポージングに
ご注目!



- ① 顔は左右対称ではないので、自信のある方を斜め30度の角度で正面に向ける。
 - ② あごを引き上目づかいにカメラに目線を送る。
 - ③ 目をパッチリ開き、口元は「チーズ」の「チ」で笑顔を作る。

絶世の美女であった彼女は、仁徳天皇の更衣(側室)であったようです。賞賛すべきはその美貌だけではなく歌人としての才能。平安時代を代表する六歌仙の一人でもあります。

「花の色は 移りにけりな いたぐらに
我が身世にある ながめせし間に」

美しさは一時のものであることを彼女は知っていたようで、能や淨瑠璃では老じざりばえ、乞食となつて各地を転々とする物語となっています。百人一首の「あきたじまち」や秋田新幹線の「こまち号」などは彼女の名前に由来してしまいます。

小野小町が後の向きなのも謎ですね。

東洋医学の美人の三要素

美人とは顔の造作が整っているだけでなく、肌・髪の色艶、目の輝き、唇のしつとり感、口臭・体臭の有無、爪の艶、そしてそれらに大きな影響を与える内臓器官の動きを重視します。それには「気・血・水」の流れを良くする事が大事。

- ① 「気」は生理機能を運動させる原動力。気が不足すると病気の原因となります。睡眠、食事をきっちり取り、ストレスをためないことが大切。
 - ② 「血」は血管の中の成分。血が停滞すると月経異常、冷えなどを生じます。さらに肌もカサカサになって吹き出物が出ることも。
 - ③ 「水」は汗、唾液、涙、尿、リンパ液などの体液。水の循環が悪くなるとむくみなどの症状が出ます。